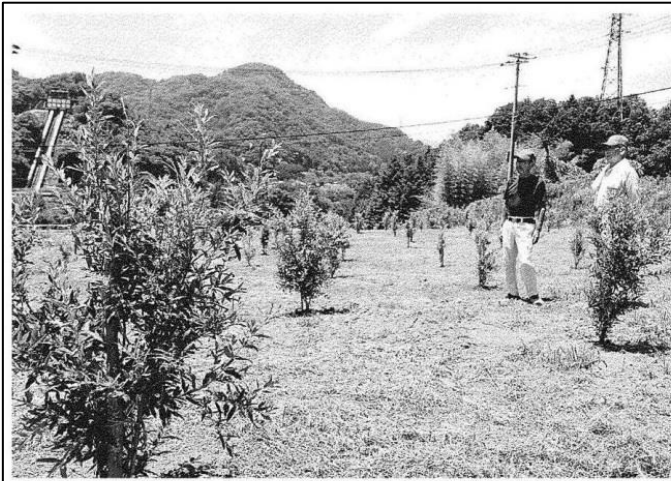


年 組 名前：



ザクロの苗木を育てている地域住民
—大月市賑岡町強瀬

大月をザクロ産地に

住民有志 苗木100本 毎年植樹へ

大月市の住民有志が、果物のザクロを市の特産にしようと栽培に取り組んでいる。4月に苗木約150本を植えたのを皮切りに、今後も毎年100本程度を植樹。ザクロの加工開発などを手掛ける県内の研究会に所属しているメンバーもいて、産地化を目指している。市の活性化と耕作放棄地の解消につなげたい考えだ。

〔小林諒〕

市の新たな特産品をつくらせようと立ち上げ、現在は約10人で活動。地域住民が7月に「おおつきザクロプロジェクト」を立ち上げ、4月にはメンバーが所有する市内3カ所の農地計約3

300平方メートルに、ザクロの苗木約150本を植えた。今後は毎年100本の苗木を植樹する予定。果実ができるには3〜5年かかるという、息の長い活動となる。おおつきザクロプロジェクト代表の黒木秀雄さん(84)は「まずは実が付くことを目指したい。若い世代を含め活動への参加者を増やし、栽培地を広げていきたい」と意気込んでいる。

県内で栽培研究や商品開発に取り組んできた「ザクロ果実栽培・利用研究会」によると、ザクロは地中海や米国などで栽培されているが、国内では主要な産地はない。販路が確立されていないのが理由で、家庭での観賞用が中心となっているという。

研究会の小宮山美弘会長は「日当たりが良く、乾燥した地域が適している。大月が産地の最適地かは分からないが、産地化の可能性はある」と語った。

(2022年7月14日付 山梨日日新聞17面)

問1 住民有志は、どのような考えを持ち、ザクロを特産にしようと、栽培に取り組んでいますか。

.....

問2 次の文章の①から④に当てはまる数字を答えてください。

『おおつきザクロプロジェクトのメンバーは、約①人で、②月にはメンバーが所有する

市内③カ所の約④平方メートルの農地にザクロの苗木を約⑤本植えた。

今後は毎年⑥本を植樹する予定。果実ができるには、⑦年から⑧年かかる。』

① ② ③ ④

⑤ ⑥ ⑦ ⑧

問3 あなたの地域で、新たな特産品を栽培するとしたら、何がいいですか。いくつでも書いてください。

.....

.....